

高瀬神社 社報

越中一宮



第56号

平成 30 年 1 月 1 日
撮影：南部スタジオ <http://www.takase.or.jp/>

越中高瀬神社
一宮



宮司就任のご挨拶

宮司 藤井秀嗣

明けましておめでとうございませす。

平成三十年の年頭にあたり皇室の弥栄、国家の隆昌、氏子崇敬者各位のご多幸をお祈り申し上げます。

旧臘一日付にて高瀬神社宮司を拝命致しました。素より浅学非才の身でありますので職責の重大さを痛感しております。この上は大神様の御神慮を畏み、誠心を尽くして神明奉仕に精励致す所存でありますので、今後とも倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

尚、皆様にお世話になりました前宮司は名誉宮司に就任致しました。おかげさまで昨年、健康やかに米寿の祝いを迎えました。が、高齢ということから御神前の奉仕に失態があつてはならぬと宮司を退くことにした次第です。これまでのご厚誼に深く感謝申し上げます。

上げます。

さて、本年は明治維新百五十年の節目の年であります。内憂外患という未曾有の国難に明治天皇を中心として国民挙げて国づくりがなされた尊い時代でした。その後、大正、昭和、平成と御代が移り、天皇陛下は、来る平成三十二年四月三十日御譲位、同年五月一日、皇太子殿下御即位という、御代替わりを迎えられることが決まっています。この様な歴史的な時代の節目に宮司就任の時期が重なったということは、何か大神様の御神慮をいただいたのではないかと思うのであります。

一昨年八月の『象徴としての義務についての天皇陛下のおことば』を拝聴した際、「伝統の継承者として、これを守り続ける責任に深く思いを致し、更に日々新たになる日本と世界の中にあつて、

日本の皇室が、いかに伝統を現代に生かし、いきいきとして社会に内在し、人々の期待に応えていくかを考えつつ、今日に至っています。」と述べられました。大変畏れ多いことではあります。が、「皇室」というところを「神社」と読み換えてみますと、我々神職の背負っている責務の重大さもあらためて認識できるのではないかと思っています。

御譲位が具体的にになり、皇太子殿下が天皇の御位に就かれても天皇陛下の祈りは不変であります。いかに時代が変化してゆくとも、私たち神職は「国の安泰」と「国民の幸福」を只管に祈られている天皇陛下の御姿、御心を氏子崇敬者に伝え、日本の神々と、天皇陛下と、国民の一人ひとりが一筋の糸で結ばれているということをお説く役目があると思ひます。

大神様からこの役目を果たすべしと、宮司を仰せつかったものと自覚して日々のご奉仕に励みたく存じます。新米宮司ですので、しばらくは落ち着かないかもしれませぬ。あらためて、更なるご支援をお願い申し上げます。就任並びに年頭のご挨拶と致します。

平成三十(戊戌)年
皇紀二六七八年

謹賀新年

名譽宮司	藤井秀弘
宮司	藤井秀嗣
禰宜	河合正登
権禰宜	魚岸一弥
巫女	山下翔子
	小倉南留美
	井元梨恵子
	中橋ゆきな
	中井直美
	中島璃子
	平野加奈
囃託	上口友子

祭事暦

例祭(大祭)

九月十三日午前十時より例祭を斎行し、氏子崇敬者約七十名が参列されました。

祭典では、御本社にて宮司が祝詞を奏上、神楽「浦安の舞」奉奏に続き、南砺市の女声コーラスグループ、ソット・ヴォーチェの先導による、「越中一宮高瀬神社奉讃歌」を一同で奉唱しました。

また功霊殿において、約六十名のご遺族が参列され、井波松風会による「金州城下の作(作・乃木希典)」、「九段の桜(作・宮本三香)」の吟詠を奉納され、参列者一同、英霊に感謝の誠心を捧げました。



新嘗祭(大祭)

十一月二十三日午前十時より新嘗祭を斎行しました。



新嘗祭は、収穫された新穀を神前に奉り、その恵みに感謝するお祭りです。当神社においても氏子崇敬者・農業関係者約七十名が参列し、献穀田(南砺市北市)で収穫された玄米を奉耕者 松井竜也氏、白米を井波地域中核農業士協議会 岩倉和弘会長、白酒を同会 岩崎修稲作部長が神前に奉納し、五穀豊穣に感謝しました。

本年は、なんと農業協同組合 上田憲仁組合長に、幣帛供進使としてご奉仕いただきました。

祭典終了後、農業発展に寄与された篤農家の方々を表彰し、献穀田奉耕者、篤志奉納者に感謝状と記念品を贈呈しました。

【篤農家表彰】

南砺市竹内

宮森 清之殿

南砺市大鋸屋

高桑 文夫殿

【献穀田奉耕者】

松井 竜也殿

【篤志奉納者】

祈禱受付机

南砺市 進殿



祭事暦

― 献穀田だより ―
拔穂祭・初穂曳奉仕



井波地域中核農業士協議会
 (岩倉和弘会長) 主催により、
 献穀田奉耕者松井竜也氏の斎田

「初穂曳」に参加された
 松井竜也氏 松井悦子氏 岩崎修氏



にて、拔穂祭を斎行しました。
 祭典は九月十七日午後二時より南砺市北市の献穀田にて行われ、斎主祝詞奏上に続き、早乙女五名が黄金色に実ったコシヒカリを丁寧に取り取りました。
 収穫された稲は、当神社の新嘗祭でお供えされたほか、十月十七日、伊勢の神宮で斎行された神嘗祭に懸税(カケチカラ)として奉献されました。
 十月十五日、このお祭りに先立ち行われた「初穂曳」には、奉耕者の松井竜也・悦子ご夫妻、井波地域中核農業士協議会

稲作部長の岩崎修氏が参加され、全国の崇敬者と共に伊勢の町を練り歩き、無事に外宮五丈殿に納めました。



早乙女の皆さん

- 杉下 愛華さん (中学生)
- 川田安希穂さん (中学生)
- 河原 愛莉さん (中学生)
- 長谷川 樹さん (中学生)
- 山田 弥美さん (中学生)

平成三十年
祭事暦

一月 一日	歳旦祭
一月 三日	元始祭
一月 七日	昭和天皇祭
一月 十五日	天照大神祭
二月 三日	節分祭
二月 十一日	紀元祭
二月 十七日	祈年祭
三月 八日	鎮火祭
三月 二十一日	春季皇霊祭
四月 三日	神武天皇祭
四月 十日	春季祭
四月 二十九日	祈年祭
六月 十日	風宮例祭
六月 十九日	稻荷社例祭
六月 三十日	夏越祭
七月 十五日	人形感謝祭
七月 二十二日	除熱祭
八月 七日	七夕祭
八月 十六日	中禮祭
九月 十三日	例祭
九月 二十三日	秋季皇霊祭
十月 七日	村まつり
十月 十七日	神嘗奉祝祭
十月 吉日	献茶祭
十一月 三日	明治節祭
十一月 十三日	神明宮例祭
十一月 十五日	七五三祝祭
十一月 二十三日	新嘗祭
十二月 二十三日	天長節祭
十二月 三十一日	除夜祭

◎毎月一日・十三日 月次祭
 ◎毎月十三日 交通安全祈願祭

観月祭

大土地神楽奉納

九月三十日、島根県出雲地方に伝わる国重要無形文化財「大土地神楽」の奉納が行われ、参拝者は神話を基にした迫力の神楽を楽しみました。

今回は、平成二十五年、平成二十七年に続く三回目の奉納で、県内初となる演目の上演ということもあり、多くの方々が賑いました。

演目内容

- 一、荒神・野見宿禰
- 一、日本武・田村
- 一、八千矛・八戸（県内初上演）



村祭

十月一日、村祭を斎行しました。午後二時より子供神輿が、高瀬の地を練り歩き、午後五時から、地元の雅楽団体「鳳鳴クラブ」の奉奏のもと、村祭を斎行しました。祭典後、参集殿にて、氏子崇敬者による舞踊・大太鼓の演舞のもと、直会を行いました。



献茶祭



十月十五日、第四十四回献茶祭（主催・高瀬神社献茶奉賛会）を斎行しました。

祭典では、祝詞奏上の後、表千家流・城宝義光氏が御神前にて点てられた濃茶・薄茶をお供えし、城宝氏、荒木美津夫氏（後見）、橋爪孝仙氏（高瀬神社献茶奉賛会副会長）が玉串を捧げられました。

里芋おはぎ茶会

十二月三日、南砺市井波地域特産の里芋を使ったおはぎを味わう茶会、「第二十一回 里芋おはぎ茶会」が行われました。毎年好評のこの茶会では、薄茶席と香煎席が設けられ、粘り気たっぷりのおはぎと、心尽くしの一服を味わうことができます。



注連縄奉納奉告祭



十二月十七日、注連縄奉納講による、注連縄奉納奉告祭を斎行しました。

新年を迎えるにあたり、向拝、一の鳥居、二の鳥居に新しい藁で調製された注連縄が張られました。この注連縄には、奉納講の皆様の願い事が編みこまれており、祭典では、張替えの奉告と各社の社運隆昌やそれぞれの願い事が成就するよう祈願致しました。

※奉納講の皆様は、十一頁の「奉納」の記事にてご紹介致します。



剣道大会

「第五十五回 奉納剣道大会」が九月十八日、敬老の日に開催され、南砺・砺波・小矢部の小中高校生約二〇〇名が日頃の鍛錬の成果を十分に発揮しました。大会は生憎の雨となり、例年の「野試合」の形式とは異なり、南砺市井波八乙女体育館にて行われ、団体戦と個人戦と、熱戦が繰り広げられました。試合結果は次の通りです。



《団体の部》

- ▽小学生男・女
 - ①井波剣道スポーツ少年団
 - ②B&G 砺波剣道スポーツ少年団
 - ③中学生男子
 - ④井波中学校
 - ⑤庄西中学校
 - ⑥出町中学校
 - ⑦庄西中学校

《個人の部》

- ▽小学生男子
 - ①辻村 侑音 (井波)
 - ②吉澤 僚大 (砺波)
 - ③島田 惇平 (井波)
 - 水口珂那人 (井波)
- ▽小学生女子
 - ①湯浅 咲渚 (晴武館)
 - ②松川 楓 (井波)
 - ③石黒 心寧 (庄川)
 - 板戸美乃里 (庄川)
- ▽中学生男子
 - ①橋爪 柊斗 (出町)
 - ②寺脇 輝 (井波)
 - ③山本 将典 (津沢)
 - 高池 慶悟 (般若)
- ▽中学生女子
 - ①石川 絢菜 (井波)
 - ②井上 寿々 (庄西)
 - ③吉澤 結香 (庄西)
 - 木田 愛梨 (井波)
- ▽高校生男子
 - ①山本 泰斗 (砺波)
 - ②南 享佑 (南砺福野)
 - ③大浦 涼太 (砺波工業)
 - 佐々木 翔太 (砺波)
- ▽高校生女子
 - ①松川 瑞穂 (砺波)
 - ②埴山 唯紀 (砺波福野)
 - ③藤森 早紀 (砺波)
 - 小西 芽衣 (砺波)

お伊勢参り落語会



十月二十五日(水)午後二時より、三遊亭栄楽氏による「お伊勢参り落語会」を開催しました。約五十名が、嘶の中に描かれる神話・伝統の世界を、笑いを交えて聞き入っておられました。

番組内容
一、笑いの作られ方と
その根源
二、笑いいっぱいの落語
「目葉」
一、お伊勢さんと笑い、
伝統芸能
三、神様仏様が心の
ありようとなった



今月の言葉

毎月社頭にて配布しています。
先人達の名言や格言は、現代に生きる我々の人生における教訓を与えてくれます。お参りの際には、手にとってお読み下さい。



社頭にて配布しています

高瀬村からの北海道移住

北海道開拓移住の歴史は、明治維新以後に始まります。開拓移住の主な目的は、北海道の漁業・農業・林業等の産業開発で、対外的には南下するロシアからの防衛という意味合いもありました。明治七年（一八七四）、開拓と北方防衛を兼ねて屯田兵制度が採られるようになり、多くの人々が北海道へと移住しました。現在の北海道の人口は、五百四十万を越えていますが、維新当初は、僅か約十二万程度だったと推定されています。

富山県からの最初の開拓移住者は、明治八年（一八七五）頃、西砺波郡鷹栖村（現砺波市）から出たといわれています。その後も県内からの移住者は続々と増え、五年毎の統計だと、明治三十五年（一九〇二）～明治三十九年（一九〇六）、明治四十年（一九〇七）～明治四十四年（一九一一）の間、富山県の移住戸数は全国最多で、

明治二十五年（一八九二）～大正十一年（一九二二）までの県内移住戸数は、四万を超えました。

当社との関係では、明治二十七年（一八九四）、当地方の人々が、故郷の当神社の御分霊をお受けして砺波神社（現北海道岩見沢市栗沢町砺波）を創建しています。

平成十六年（二〇〇四）、氏子の石岡政清氏の土蔵から北海道移住時の台帳が発見されました。台帳には、明治四十一年（一九〇八）二月十四日の日付と「石岡孫次郎」の名が記され



発見された台帳

ていました。政清氏との関係は、はっきりとはわかりませんが、分家筋にあたるということです。台帳は三冊あり、移住の際に売った物と買主、価格が書かれています。羽織は八十銭、たんすは三十五銭、着物は二十二銭で売られ、まな板、立ち木のヒバ、柿、ツツジや板屑、灰といった物も売却されており、相当経済的に苦しい家計であったことと想像されます。これには、明治三十九年の県下における風水害の影響と、明治四十年の病虫害発生による不作がもたらした米価暴騰が関係していたと考えられます。

反面、政清氏は、「この台帳から、物を大切にし、簡単に捨てることのなかった当時の生活ぶりが分かる。現代だと、家を取り壊すとき、まだ使用できる家財道具一切を解体屋にゴミとして金を出して始末してもらっているが、一場帳を見ると、マナ板、手桶、鋏、鋸、バンドリ

(権禰宜 魚岸一弥記)



鉢を2銭で売った記録

（雨具）まで、現金に換えている」と話されていました。

当時の北海道の入植開墾は、交通不便な原野、原始林への入植、冷水害、農機具の不備、日用物資入手の困難など、相当な悪条件を克服しなければなりませんでしたが、現在は苦勞が実るといふことです。

団体参拝日誌抄 (平成二十九年八月〜十二月)

八月

- 十二日 井波中学校 寅卯会
(昭和四十一年卒業生)



- 十九日 となみの
サマーチャレンジ
- 二十九日 宇夫階神社
(香川県綾歌郡宇多津市)
- 同日 「越中チャレンジ」
御朱印ツアー

九月

- 六日 明治神宮
網谷道弘権宮司
- 九日 コロンブスツアー
(日本海ツーリスト)
- 十一日 若一王子神社
(長野県大町市)
- 十四日 友愛クラブ
がまごおり
- 十七日 コロンブスツアー
(日本海ツーリスト)
- 二十一日 福井県護国神社
(福井県福井市)



- 二十七日 南砺市立
福光中学校総合学習

十月

- 三十日 南砺市交通安全協会
交通安全キャンペーン

- 八日 モテモテなんと
お見合い大作戦

- 十六日 JANAがの裾花支所
戸隠地区年金友の会
- 二十八日 高岡市民歩こう会



- 同日 茶箱会

十一月

- 六日 コロンブスツアー
(日本海ツーリスト)
- 八日 元山白山神社
(長野県飯田市)
- 二十日 大人の社会見学
(敬称略)



- 十六日 京都國學院

団体参拝のご案内

古来より様々なご縁を結ぶ福の神・結びの神である大国主命(だいにくさまのみこと)をおまつりする当社では、会社の参拝(安全祈願・創業記念日)、必勝祈願、同窓会記念参拝等の各種団体の祈願を受け付けております。お問い合わせは社務所へお願いします。

平成30年 厄年・身祝一覽

(厄年) 数え年

	前 厄		本 厄		後 厄	
男	24歳	平成7年(亥)	25歳	平成6年(戌)	26歳	平成5年(酉)
	41歳	昭和53年(午)	42歳	昭和52年(巳)	43歳	昭和51年(辰)
	*60歳	昭和34年(亥)	*61歳	昭和33年(戌)	*62歳	昭和32年(酉)
女	18歳	平成13年(巳)	19歳	平成12年(辰)	20歳	平成11年(卯)
	32歳	昭和62年(卯)	33歳	昭和61年(寅)	34歳	昭和60年(丑)
	*36歳	昭和58年(亥)	*37歳	昭和57年(戌)	*38歳	昭和56年(酉)

※数え年とは、満年齢に誕生日前には2歳、誕生日後には1歳を加えた年齢です。
 ※*…この年を厄とする地域もあります。

(身祝) 数え年

	年齢	生まれ年
還暦	61歳	昭和33年(戌)
古希	70歳	昭和24年(丑)
喜寿	77歳	昭和17年(午)
傘寿	80歳	昭和14年(卯)
米寿	88歳	昭和6年(未)
卒寿	90歳	昭和4年(巳)
白寿	99歳	大正9年(申)

※男女ともに祝います。

戌の日 (安産祈願)

- 1月 6・18・30日
- 2月 11・23日
- 3月 7・19・31日
- 4月 12・24日
- 5月 6・18・30日
- 6月 11・23日

腹帯のお祓いも行いますので
 ご持参下さい。



授与しますので、ご家族お揃いで、是非ご参列下さい。
 祭典終了後には福豆・福飴を
 二月三日 午後三時齋行

節分祭 (豆まき)

就学安全 祈願祭

今年ご入学される児童・生徒の皆様、おめでとうございませう。新しい学校生活が、今から待ち遠しいですね。
 立派に成長されたお子様の晴れ姿を大神さまにご奉告され、これまでの成長に感謝し、益々の健康・学業成就をお祈りされてはいかがでしょうか。
 どうぞ新しいランドセルや学生カバンなどを持参され、ピカピカの制服等でお越し下さい。

期間 春分の日より
 四月三十日まで

受付 午前九時から
 午後四時三十分まで
 ご祈祷入口からお入り下さい。



「一の宮」は全国に約一〇〇社あります。平安時代、各地域で古くから崇敬を集め、神位も高く、由緒正しい神社が「一の宮」として定められました。
 「御朱印」はこのような神社を参拝し、各神社にお祀りされている大神様の御神徳をいただく為のものです。時間をかけて自分流に全国の「一の宮」を巡ってみてはいかがでしょうか。

「全国一の宮めぐり」をしてみませんか?



巾着袋

一五〇〇円



新ガイドブック

一〇〇〇円



ガイドブック

一〇〇〇円



御朱印帳 (小)

一三〇〇円



御朱印帳 (大)

三三〇〇円

※雲井涌柄(桃色)と青海波柄(青色)の二種類をご用意しています。

ご案内

はがた いし 歯固め石

当神社では、お食い初めの石「歯固め石」を授与しております。ご希望の方は社務所へお声がけ下さい。

※「歯固めの石」とは

生後百日頃は、赤ちゃんの歯が生えはじめる時期です。お食い初めの行事では、赤ちゃんに石のように丈夫な歯が生える事を願う「歯固めの儀」を行います。この「歯固めの儀」で使われる石の事を、「歯固め石」と言います。



宝物殿のご案内

古代の石器や加賀藩主前田家奉納品など、当神社縁の宝物を展示しています。ご参拝の際は、どうぞご覧下さい。

開館日時

事前に社務所へ

お申し込み下さい。

拝観料 無料



奉納

○「初穂米」

氏子 岩倉 勲殿

氏子 寺西 雅典殿

立山町半屋 村木 謙一殿

氷見市谷屋 中谷 信義殿

○「神饌米」

南砺市 井波地域中核農業士協議会殿

奉耕者 松井 竜也殿

氏子 岩倉 和弘殿

○「提灯二張・提灯台一对」

氏子 石川 憲明殿

氏子 岩倉 清司殿



○「菊花」

氏子 寺西 孝志殿

○「掃除機」

有限会社さつき堂

○「干支絵」

小矢部市鴨嶋 森川外茂男殿



○「日章旗」

氏子 大和彌壽夫殿

○「干支(戌)大絵馬」

南砺市山下 南部 榮殿

富山市古鍛冶町 大谷美術学園

園長 大谷 弓子殿
砺波教室の皆さん

○「大注連縄」

高瀬神社注連縄奉納講 株式会社縄合屋

有限会社石森石材 有限会社ナガイ工業

編集後記

あけましておめでとうございます。年末の忙しい時期ではありませんでしたが、今号もこうして無事に発刊することが出来ました。関係各所、ご協力下さった方々に厚く御礼申し上げます。今年もよりよい社報となるよう努めて参りたいと思っておりますので、本年もよろしくお願い申し上げます。(魚岸)

各種お問い合わせにつきましては、社務所へご連絡下さい。(〇七六三) 八二一〇九三二

社報バックナンバー

当神社ホームページで
ご覧頂けます。

〔表紙写真〕

干支(戌)大絵馬と
大谷美術学園の皆さん

野原工業株式会社
株式会社島田木材
藤森工業株式会社
人肌の宿 川金
安達万佑子
北島 嘉孝
(順不同・敬称略)

結びの杜の神前式



日常の喧噪を隔てる境内で、参進の儀にはじまり
社殿に響き渡る雅楽の調べのなか、厳かな神前式が叶う
大国様の「結び」の御神徳により、両家の絆も強く結ばれる

一日一組のプライベート空間

◆◆ 新参集殿 ◆◆

すべては一組の新たな夫婦の幸福のために



只今ご予約受付中

あなたの人生に、神社がある。越中一宮高瀬神社

〒932-0252 富山県南砺市高瀬291
ご予約はTEL0763-82-1131

高瀬神社  検索